

未収益期間を短縮でき、低樹高で作業性がよい新たなりんごわい化栽培

矮性台木M.9の側枝形成済み2年生苗木の密植並木植えにより、早期成園化と低樹高化が達成できる栽培技術

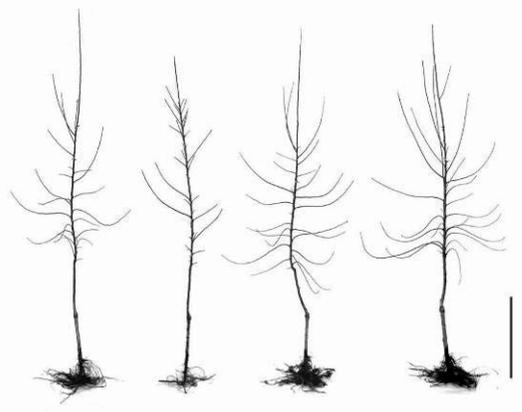
①研究開発の背景

従来のわい化栽培では、成園化するのに定植5年を要し、8年目以後は樹が強大化する。定植後早期に成園化し、作業性がよい低樹高な樹体を維持できる栽培技術が望まれた。

②研究成果の内容

側枝形成済み苗木を10a当たり125～200樹定植
定植5年目には10a当たり4トン程度の収量

小型で受光態勢が良い樹
結実部位は2.5m以下

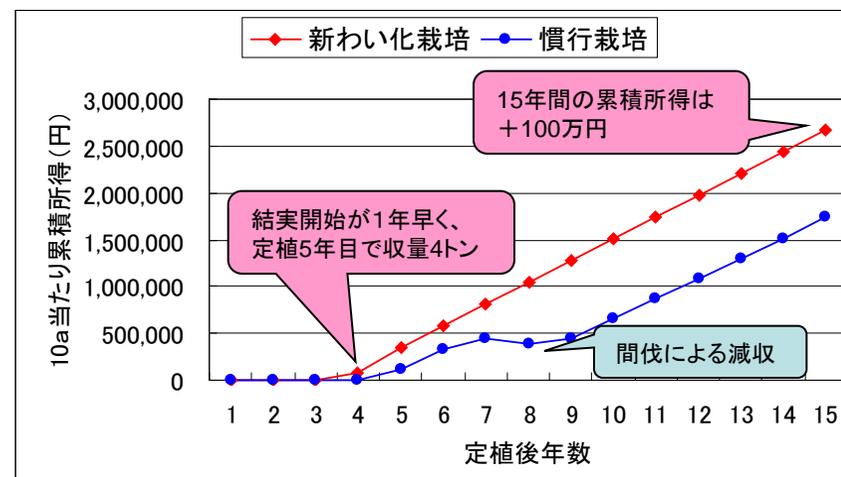


1年生苗木を移植せずに切り返し
芽かきで1新梢に整理し、
ビーエー液剤を複数回散布して養成



大型化した矮性台木樹
受光態勢、作業効率ともに悪い

③研究成果を導入した際のメリット



④期待される効果

りんご栽培における生産技術の強化と産地の収益力の向上に寄与。

導入をオススメする対象
最大積雪量1m以下の地域のりんご農家